

筑波大学における 男女共同参画・ダイバーシティ推進の現状と課題

全教職員対象アンケート調査の結果より

平成27年8月
筑波大学ダイバーシティ推進室

調査期間：平成27年1月9日～2月6日、郵送によるアンケート調査により実施

対象者数：全教職員 5,218名

回答者数：1,591名（男性 694名、女性 894名、無回答その他 3名）、有効回答率 30.5%

年代別数：20代 207名、30代 447名、40代 473名、50代 375名、60代 86名、無回答 3名

性別による処遇の差は、女性は雇用後に、男性は雇用時に感じていました

★ 全体では男女ともに約7割の人は処遇の差を感じていないと回答しましたが、男女ともに「雑務の負担」において処遇の差を最も感じていました。とくに女性は「昇進・昇給」、男性は「採用」において処遇の差を感じていることが示されました（図1, 2）

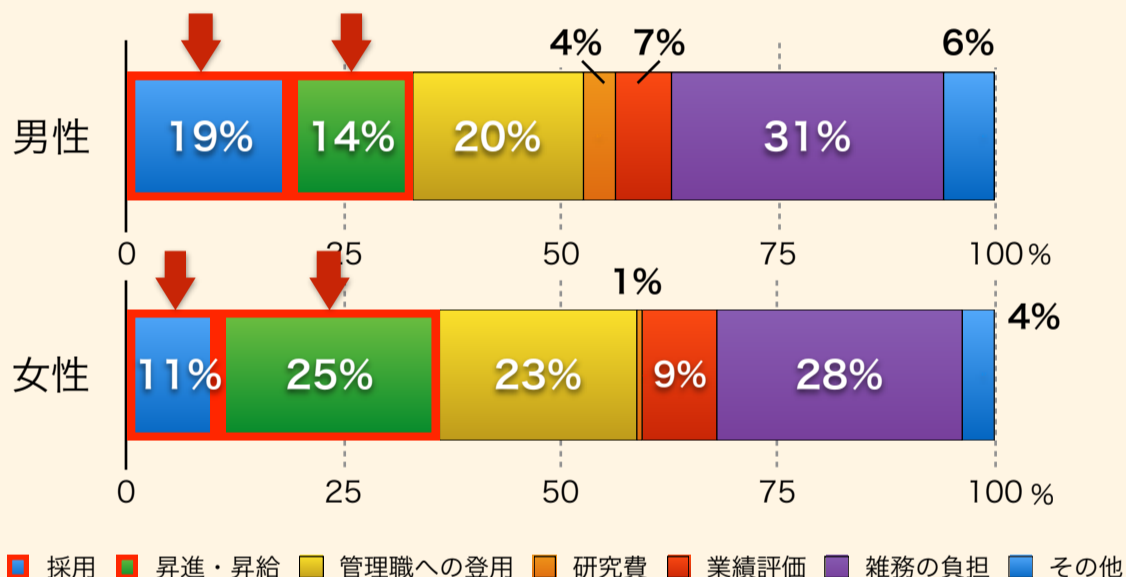
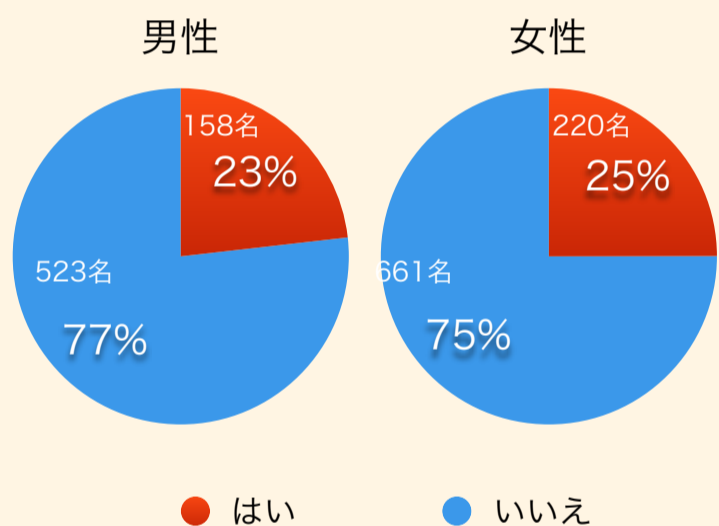


図1 性別による処遇の差を感じるか（男女別）

図2 性別による処遇の差を感じる点（複数回答、男女別）

女性研究者が少ないことの最も多い理由は「家庭と仕事の両立困難」でした

★ 男女ともに「家庭と仕事の両立困難」を半数以上（女性は7割以上）が理由に挙げました。次いで「育児期間後の復帰困難」や「社会の意識」「職場環境」なども理由の上位を占めました（図3）

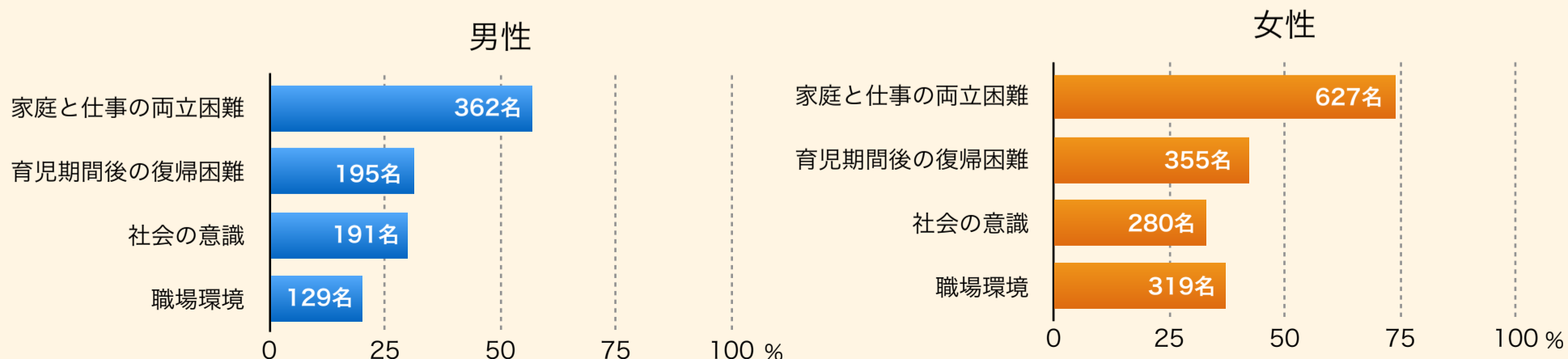


図3 女性研究者が少ない理由（複数回答、男女別、上位4項目抜粋）

• 子育てにおいて、女性は職場への影響を強く懸念する傾向が示されました

★ 子育てに必要な支援について、女性では「職場（上司・同僚等）の理解」を77%の人が挙げ、最も多く示されました。男性では「保育所の確保」が最も多く、67%の人が挙げました（図4）

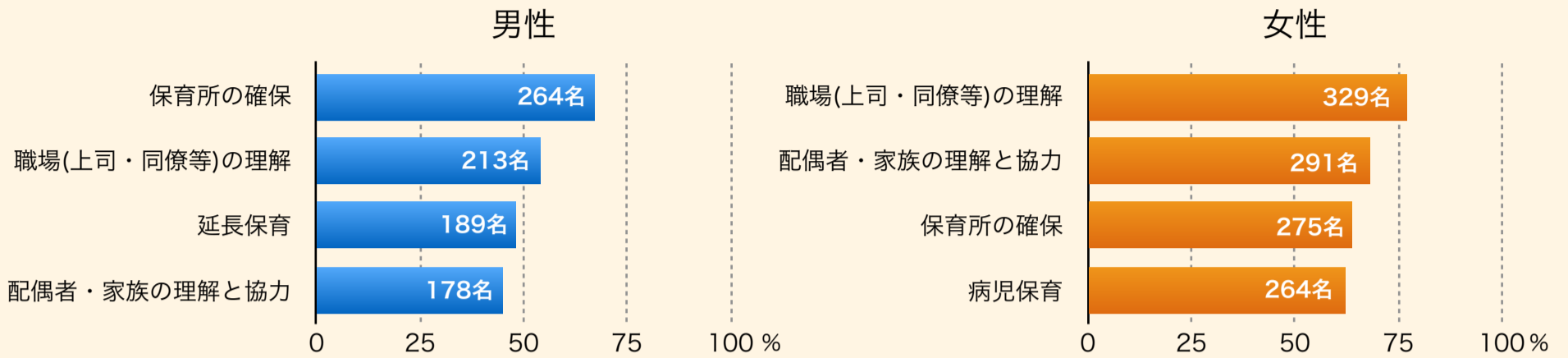


図4 必要な子育て支援（複数回答、男女別、上位4項目抜粋）

• 出産・育児の予定がある人は「仕事との両立」の不安を強く感じていました

★ 出産や育児の予定や計画があると回答した人（341名）が感じる不安として、男女ともに約7～9割の人が挙げました（図5）

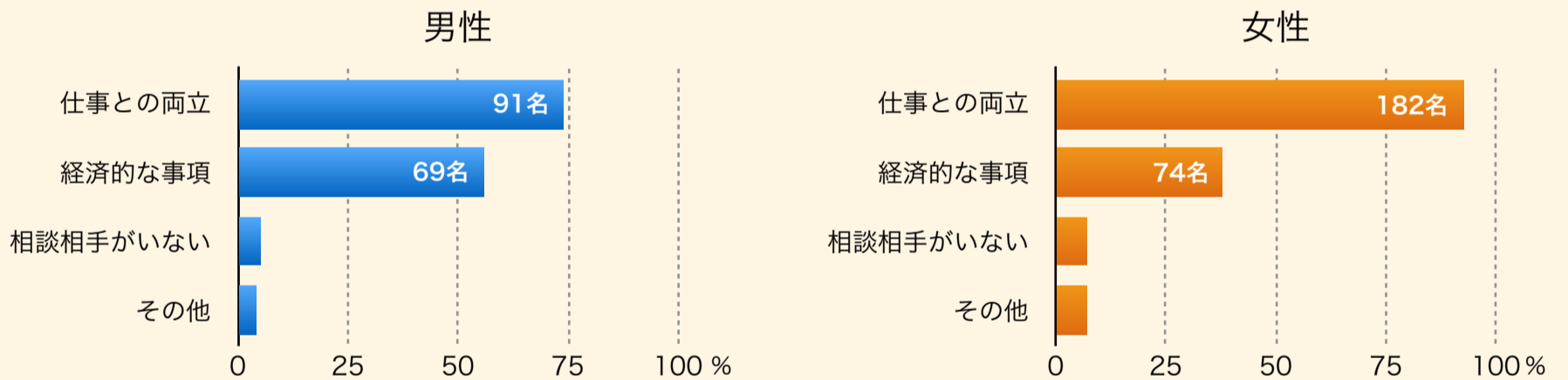


図5 出産・子育てに対する不安（複数回答、男女別）

• 仕事と生活について、バランスがとれていると回答した人は6割でした

★ 反対に約4割の人は仕事と生活のバランスがとれていない現状が示されました（図6）

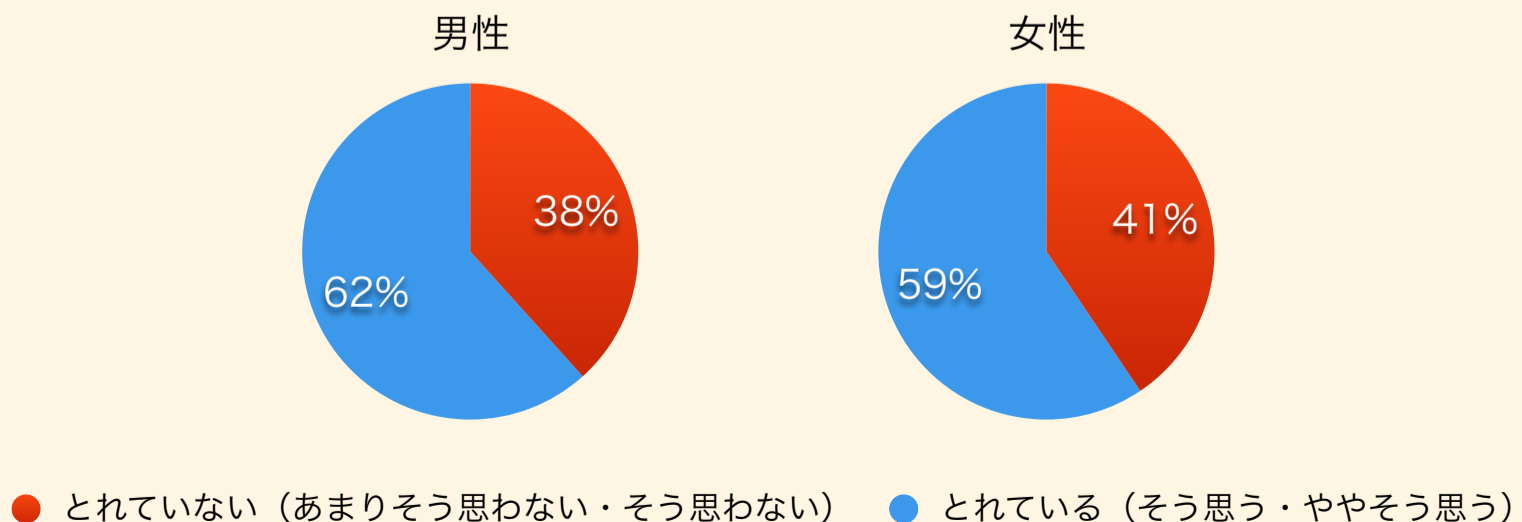


図6 仕事と生活のバランスはうまくとれているか（男女別）

・ **仕事と生活の両立に関する相談相手として、男性は女性よりも相談相手が限定される傾向が示されました**

★ 女性は「親・家族」のほかに「友人」が多い一方、男性は「配偶者」が最も多い様子が見られました。また、相談相手が「いる」と回答した男性は半数に留まりました（図7,8）

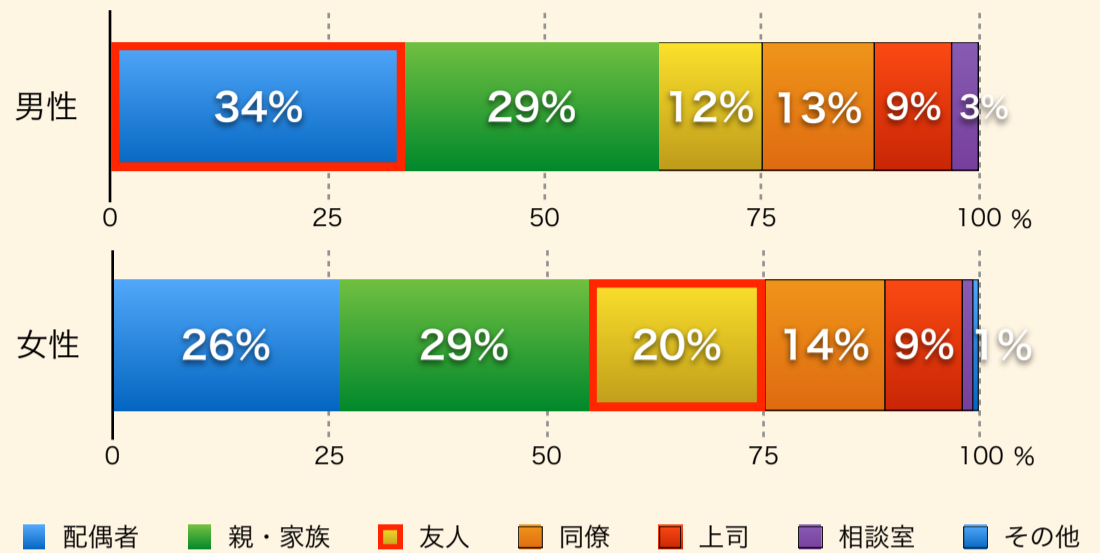
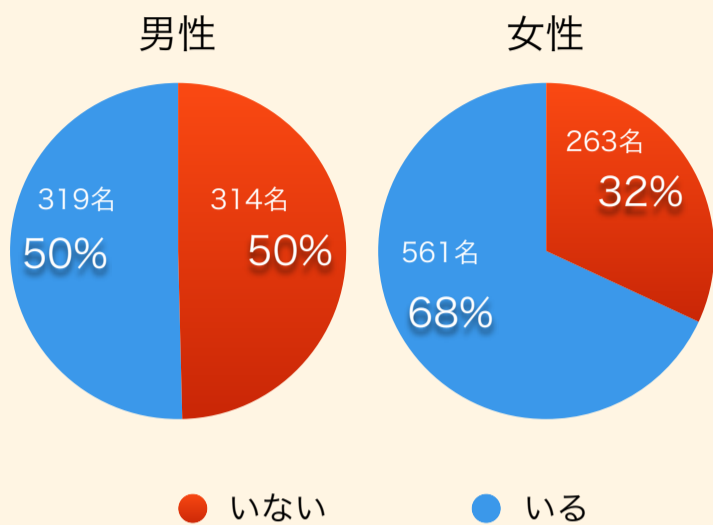


図7 育児・介護と仕事の両立について相談できる人の有無（男女別）

図8 育児・介護と仕事の両立の相談相手（複数回答、男女別）

・ **時間外勤務の縮減や育児・介護のための代替補助制度、在宅ワーク制度などの一層の充実を望む声が見られました**

★ 一方、ダイバーシティ推進に関する具体的な施策について「分からない」と答えた人が最も多く、学内の周知に一層取り組むべきことが示されました（図9）

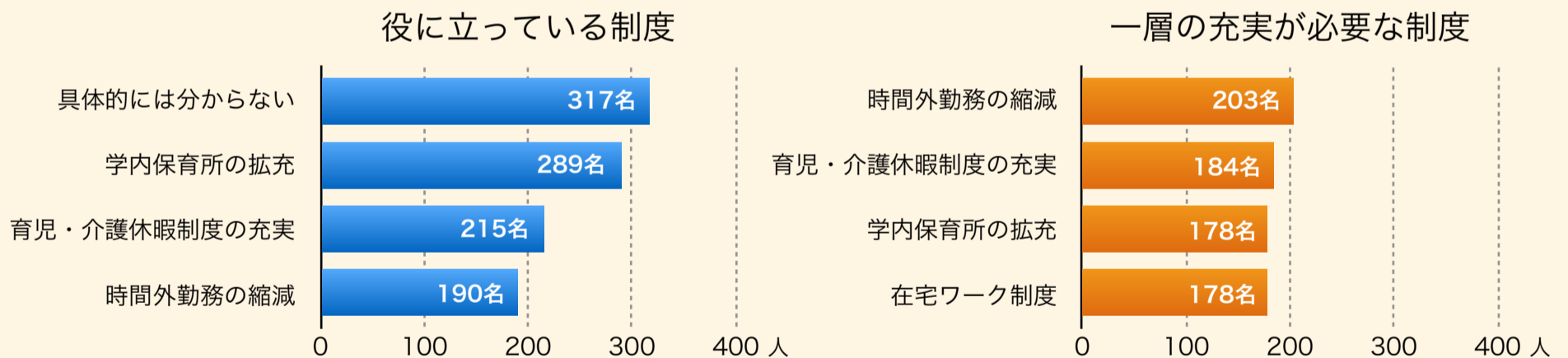


図9 ダイバーシティ推進に役立っている制度／これから一層充実が必要な事柄（複数回答、上位4項目抜粋）

ダイバーシティ推進が性別や年代、職種に関わらず公正に実施されるとともに、他の人に対する新たな負担や弊害とならないよう求める声が見られました

平成26年度 筑波大学における男女共同参画・ダイバーシティ推進に関する調査報告書（概要版）
 発行年月日：2015年8月
 編集・発行：国立大学法人筑波大学ダイバーシティ推進室
 連絡先：〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp